Press Release 報道用資料
2010 年 10 月

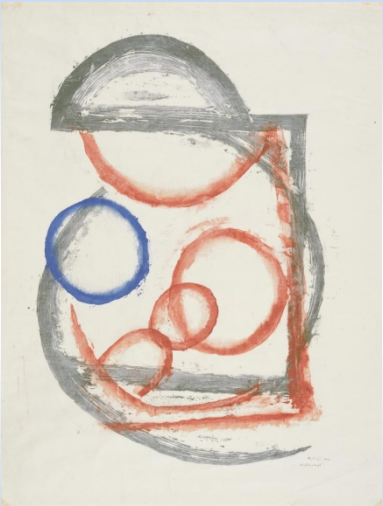
秋のコレクション展

ひと | HITO

所 蔵 作 品 に み る 人 間 の か た ち

HITO ―Forms and Images of Man from the Museum Collection

神奈川県立近代美術館　鎌倉
2010 年 11 月 13 日(土)-2011 年 1 月 16 日(日)



恩地孝四郎《母性》1946 年

「ひと」は、人が生み出す美術にとって、もっとも親密でありながら、もっとも謎めいており、崇高にも、悲劇にも、喜劇にもなりうる主題です。この永遠のテーマに近代の芸術家たちはどのように取り組んできたのか。当館所蔵の絵画、彫刻、素描、版画から、「人」のイメージの諸相を探ります。

松本竣介《立てる像》1942 年

休館日：
月曜日（1月 10 日は開館）、11 月 24 日（水）、12 月 24 日（金）、12 月 29 日（水）～1 月 3 日（月）、1 月 11 日（火）

開館時間：
午前 9 時 30 分-午後 5 時
（入館は午後 4 時 30 分まで）

観覧料：
一般　700　円（団体　600　円）、20　歳未満・学生　550 円（団体 450 円）、65 歳以上　350 円、高校生　100 円

※（　）内は 20 名以上の団体料金です。
※中学生以下、障害者手帳をお持ちの方は無料です。
※ファミリー・コミュニケーションの日：
　毎月第1日曜日（今回は 12 月 5 日）は、18 歳未満のお子様連れのご家族（65 歳以上の方を除く）は、優待料金でご覧いただけます。

主催：神奈川県立近代美術館

お問合せ先：
神奈川県立近代美術館　鎌倉
tel.0467-22-5000　fax.0467-23-2464
〒248-0005　鎌倉市雪ノ下 2-1-53
広報担当：山内舞子・松尾子水樹
展覧会担当：太田泰人・山内舞子

プレスリリース、及び展覧会情報は美術館ホームページでもご覧いただけます。
http://www.moma.pref.kanagawa.jp

「ひと」は、人が生み出す美術にとって、もっとも親密でありながら、もっとも謎めいており、崇高にも、悲劇にも、喜劇にもなりうる主題です。この永遠のテーマに近代の芸術家たちはどのように取り組んできたのか。当館所蔵の絵画、彫刻、素描、版画から「ひと」のイメージの諸相を探ります。

展覧会は、第 1 部：かお、第 2 部：からだ、第 3 部：生きているひと、第 4 部：死と向き合う、第 5 部：「HITO」とは、の 5 つの部門から構成されます。
第 1 部では、私たちにもっともさまざまな感情を伝える「かお」に眼差しを集中させた「肖像」、「自画像」などと呼ばれるジャンルの作品を展示します。次に第 2 部では、私たちが首から下の「からだ」の部分に何を感じ、何を表してきたかを考えます。どうして女性の裸像ばかり描かれるのでしょう？なぜ首も手足もない「トルソ」などという形があるのでしょう？さらに第 3 部では、子ども時代から老年まで時の流れの中で「生きている」人間のさまざまな様相を表した作品を紹介します。第 4 部では、戦争などで人間を否応なく「ひと」の世界から引き離す「死」に向き合った人間を伝える作品を考えてみます。そしてさいごに第 5 部は、「HITO」とは？と題して、現代社会に生きる人間の存在あるいは不在を、ときには悲劇的にときにはユーモアをこめて表した作品群を展示します。

岸田劉生、関根正二、佐伯祐三、児島善三郎、藤田嗣治、松本竣介、麻生三郎、阿部展也、堀内正和、渡辺豊重、 高松次郎、 吉田克朗、アルベルト・ジャコメッティなどによる約 70 点の作品で構成された本展を通じて、「なんじ自らを知れ」という永遠の問いかけに立ち向かった芸術家たちの声に耳を傾けて下さい。

岸田劉生《村娘》1921 年

糸園和三郎《黄色い水》1968 年

堀内正和《ウィンクする MiMi ちゃん》1967 年

内田巌《トランプ》1934 年

佐藤敬《少年像》制作年不詳

児島善三郎《立てるソニア》1927 年

担当学芸員によるギャラリートーク

2010年11月27日(土)、12月11日(土)、12月25日(土)、2011年1月8日(土)

いずれも午後2時より

申込不要、参加無料
(ただし展覧会の観覧券が必要です)

先生のための特別鑑賞の時間

2010年11月27日(土)
午後3時より

対象：小・中・高・特別支援学校の教員・職員

申込が必要です。
詳しくはホームページをご覧ください。